

日韓合同セミナー・日韓 IT サービス産業交流会報告

2011年7月16日、韓国ソウルで「クラウドコンピューティングのビジネス機会と発展動向」をテーマとして、JISA と韓国情報産業联合会（FKII）共催による日韓合同セミナーが開催された。参加者は約120人。

Yoon Dong-Sup FKII 副会長、杉山尋美 JISA 副会長による開会挨拶の後、まず韓国セールスフォースドットコム Lee Youngsoo マネージャーより発表が行われた。

「クラウドコンピューティングは、現在、大企業を中心とした IaaS とプライベートクラウドの分野を中心に成長を続けている。セキュリティやデータの所在などの課題があるが、今後はタブレット端末やスマートフォンなどのデバイス、Facebook など SNS と一緒になり、よりオープンでソーシャルなサービスへと発展していこう。セールスフォースは、PaaS、SaaS 領域をターゲットにしており、企業ユーザーに対してもソーシャル・エンタプライズ・プラットフォームを提供していきたい。」

続いて NEC プラットフォームマーケティング戦略本部シニアマネージャー小池晋一氏より日本のクラウドコンピューティングの動向について発表が行われた。「クラウドは、オープンとクローズの横軸、ソーシャルとパーソナルの縦軸により領域をわけて考えることができる。クローズでソーシャルな領域では Facebook、クローズでパーソナルな領域では Apple、オープンでパーソナルな領域では Google、オープンでソーシャルな領域では米連邦政府のオープンデータ政策が代表的だ。3月の東日本大震災によって ICT 産業だけでなく、日本経済全体が大きなダメージを受けた。しかし、たとえば、いち早く道路情報が Google マップ上に表示されるなど効果を示すことができた。別の影響としては、データセンターの立地を海外を含めて考える企業が増えると思われる。日本では、クラウドベンダーとして外資系企業のほうが認知度が高い状況だが、これからはセンサーによる情報なども取り込みソーシャルクラウドの領域が大きく発展していくと思われる。」

次に韓国の三星 SDS より、三星 SDS の実施しているクラウドコンピューティング事業の事例紹介が行われた。「モバイルデバイスが浸透しており、エンタープライズシステムにおいてもモバイル機器への対応が課題になってきている。デバイスの認証、紛失時の対策、提供アプリケーションやサービス等について課題があるが、モバイル対応に関する戦略的方針を決め、セキュアでマルチプラットフォームに対応するサービスが求められている。モバイル・デスクというクラウドソリューションを提供していきたい。」

事例の最後に、NTT データ 土橋昌氏より発表が行われた。「日本のユーザー企業はプライベートクラウドに関心が高い。またオンラインゲームなどもプライベートクラウドとして提供するようになっており、急速に成長している。今後クラウドコンピューティングにおいてもビッグデータをどのように取り扱うか関心事項になっている。」として Hadoop というソリューションの事例紹介がおこなわれ、その上で展開されるアプリケーションが例示された。

最後は英和女子大学 Yang Hee-dong よりクラウドコンピューティングにおいて解決すべき課題として、透明性（セキュリティ基準と信頼性基準の提供）、コンプライアンス（データのモニタリングと管理）、越境データフロー（データの物理的所在）、プライバシー（個人情報に関する悪意ある侵入者への対応）、認証（プロバイダーの生存可能性）を明確にしていく必要があると指摘した。

(山本)

